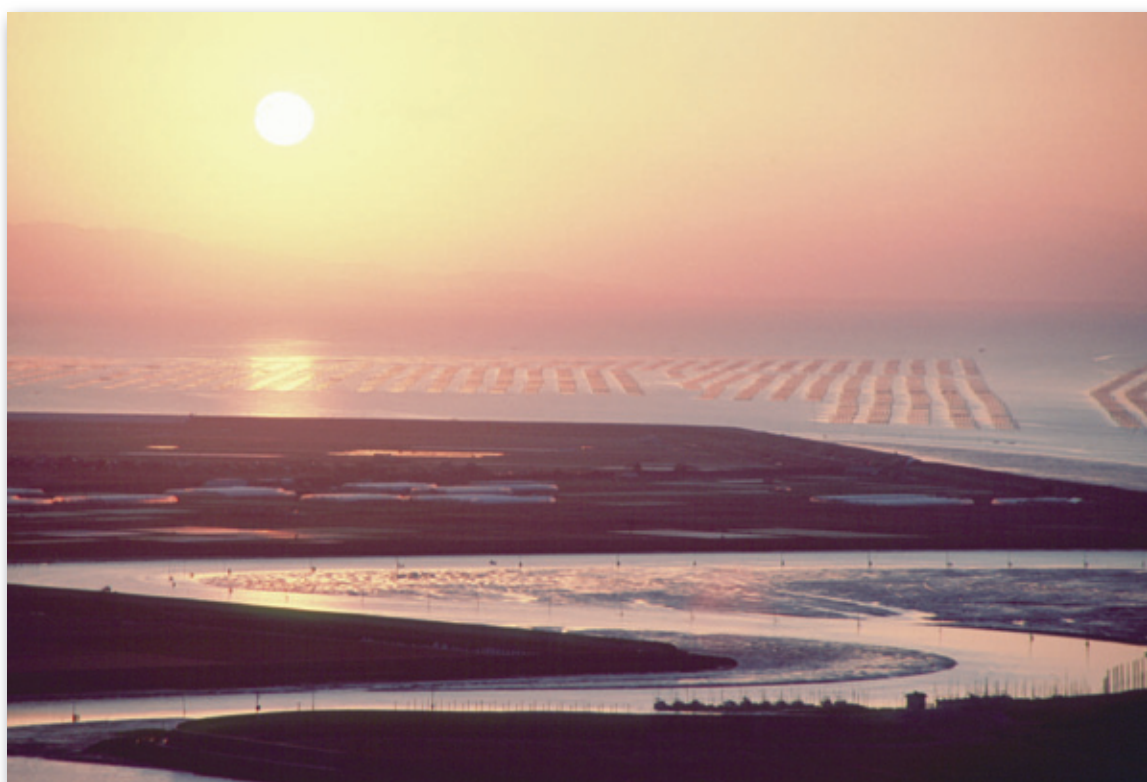


ふくおか

一般社団法人 福岡県学校歯科医会

県学歯

2018.1 No.91



初日の出

Contents

○巻 頭 言	杉原 瑛治	1
○第22回福岡県学校歯科保健研究大会		2
実践活動報告①	塚元 依子	3
実践活動報告②	芳賀 聡美	3
実践活動報告③	山地 正樹	3
特別講演	尾崎 正雄	4
○平成29年度第4回福岡県よい歯の学校表彰について報告		5
○第81回全国学校歯科保健研究大会	一之瀬達也	6
○平成29年度 全国学校保健・安全研究大会・第67回全国学校歯科協議会	平瀬 久義	7
○養護教諭校外研修会報告	柳迫 正俊	7
○在宅障害児の訪問歯科診療を行ない学校歯科医として感じたこと	松田 宏一	8
○歯 鏡	三箇 正人	9
○西日本子ども歯科保健・健康会議	須ノ内茂子	10
○GO!! 学校へ行こう	加塩 大輔	13
○平成29年度「歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール」審査結果		14
○平成29年度「歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール」受賞者		15
○平成29年度 歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール受賞作品並びに総評		18
○郡市区だより		
京 都	増田 憲治	19
豊前筑上	高村伊都子	20
直 方	朝永 俊介	21
宗 像	入江 祐彰	22
筑 紫	岡村 博久	23
朝 倉	古賀 祥朗	24
八女筑後	田中 秀明	25
柳川山門	松藤 拓之	26
大牟田	高村 聖一	27
小 倉	上田 雄造	28
戸 畑	柴田 和成	29
八 幡	楠本 俊司	30
○表 彰、事業報告、会務報告		31
○物故会員、公告、予告、編集後記		33

表紙の写真：初日の出、裏表紙：樹氷

福岡県学校歯科医会 元会員 安田 嘉道 氏（柳川山門）

学校歯科医の一人として

会 長 杉 原 瑛 治



新しい年を迎えました。明けましておめでとうございます。
昨年は北朝鮮のミサイル発射に驚かされました。アメリカと北朝鮮が力の論理で対峙することにより、世の中が変化し、日本も大きく変化しようとしています。いつ惨事が起こるかもしれません。

しかし、将来を担っていく子供たちには、相手のことも考えながら自分のことは自分でできる、自分の国は自分たちが考え、守っていくことができる、そのようなしっかりとした考えができる教育も必要ではないでしょうか。そのためにも、生活習慣の確立、態度、心・精神教育の基礎を、私たちが行っている保健教育の中で見出し、日常的に行っていくことも必要ではないでしょうか。絶対に自分だけというわがままな子供を育ててはいけません。

私たちも学校歯科医として、学校での公務を学校職員の一人として決められた学校保健の職務を行い、将来、国を担っていく子供たちのために、教育委員会、学校からの情報に耳を傾けながら行動をしなければなりません。歯科界の組織の中にいる歯科医師は、組織の中で会を通して情報を享受し行動をすることが当然のことと思います。残念なことに、学校歯科医の中に組織を脱退し、学校の職員の一人として児童生徒のいることを忘れて、健診事業のみに終始する行動をする人がいます。学校という組織の中にいる学校歯科医として、県の教育委員会等の情報網を抜きにして職務が完遂できるか不安です。

学校歯科医の業務は毎年少しずつしか変化しません。学校歯科保健の専門職である先生方は、同じようなことでも学校歯科保健管理、保健指導、組織活動の指導者としての知識を、学校保健委員会等に参加して発信していただきたいのです。

会長職に就いた時に3つの約束をしました。

- ①会員の目線に立った会務運営
- ②学校歯科医の地位の向上
- ③会員がわかる学校歯科保健を周知する。

この3点を念頭に役員一同は常に前を向いて、会務に携わっています。

来期に向け、来年度の事業予算計画を立てています。先生方のご協力を紙面をお借りして心よりお願い申し上げます。未来を担う子供たちの為の学校歯科医会です。先生方の益々のご活躍とご健勝を祈念いたします。



平成29年11月18日（土）福岡県歯科医師会館5階大ホールにて、日本学校歯科医会、福岡県教育委員会をはじめ多数の来賓を迎え、第22回福岡県学校歯科保健研究大会が開催された。現場での成果につながるヒントを求め、学校歯科医、養護教諭、学校栄養士、歯科衛生士、学校教育関係者など、329名が参加した。団体表彰として、遠賀中間歯科医師会、よい歯の学校表彰として県内5校の校長・養護教諭及び学校歯科医が表彰された。また、歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクールならびに健康啓発標語コンクールの優秀作品に対し、福岡県学校歯科医会会長賞ならびに福

岡県教育委員会賞として、児童・生徒11名が表彰され壇上で保護者らのフラッシュを浴びた。

表彰式の後、「歯・口の健康づくりの総合的展開を目指して」～生涯を通じて自らの健康保持増進を目指す健康教育～の主題の基、養護教諭及び学校歯科医による3つの実践活動報告と福岡歯科大学成長発達歯学講座成育小児歯科学分野 教授尾崎正雄先生による特別講演「最近の口腔外傷の傾向と永久歯外傷の対応について」が行われた。実践を通して得られた学びの強いメッセージと、この共同学習の場に参加して頂いた方々に感謝する1日となった。



〈日学歯 川本会長〉



〈杉原会長〉

テーマ「歯・口の健康づくりの総合的展開を目指して」

～生涯を通じて自らの健康保持増進を目指す健康教育～

実践活動報告①

「子どもの学びを地域へ」

～歯科検診から始まる健口教育～

福岡市立北崎小学校 養護教諭 塚元 依子



北崎小学校は塚元先生が赴任当時、未処置歯のある者の率が全国平均のおよそ倍でした。そのため、①歯みがき②咀嚼③健口体操を柱に健口教育チャレンジプランが行われました。

あいうべ体操のビデオを作成したことで公民館で公開講座が開かれ、地域コーディネーターを介して保育園や中学校とも連携を取るようになりました。それにより、う蝕も減少しつつあります。

最後に「教育は最大のワクチン」という言葉を引用し、講演を締めくくりました。

実践活動報告②

「歯と口に良い食べ物を選び、よくかんで食べて、健康な心と体づくりに取り組む子どもの育成」

～歯と口の環境と食生活を整え、よくかんで食べる実践を通して～

北九州市立志井小学校 養護教諭 芳賀 聡美



養護教諭の芳賀聡美先生より志井小学校での実践活動報告がありました。

歯と口の環境と食生活を整え、よくかんで食べるという実践目標を掲げ、その為にいろいろな取り組みを行っています。

1つ目に、保健委員会として姿勢良く噛む為のビデオの作成、正しい歯のみがき方の教室の開催、児

童からキャラクターを募集し廊下に掲示し普段から目につくように。

2つ目に、学級活動として咀嚼力判定ガムの使用や、かみかみセンサーの活用、唾液がしっかりでる噛み方の研究を。

3つ目に、保健指導としてそれぞれの学年で取り組みを変える。例えば1年生「口呼吸のチェック、2年生正しい姿勢の確認」等。

4つ目に、学校全体で、毎朝8時30分より曲を流して（きらきら星）あいうべ体操を行ったり、毎日の給食で食事時の噛むことに関わる目標を決めて取り組む。

これらの取り組みで、健診結果の改善やインフルエンザ罹患者の減少が見られた。

また、保護者の方に学校で行っている咀嚼力判定ガムの体験や、正しい歯のみがき方教室の様子を伝え啓発活動とした。

ただ、この実践活動には、家庭での理解、協力が不可欠だが学校での取り組みを「いかにお知らせするか」が課題との事でした。

実践活動報告③

「27年にわたる歯みがき講習会」～フッ化物洗口の実践～

北九州市立北小倉小学校 学校歯科医 山地 正樹



山地先生は北小倉小学校学校歯科医就任時に、児童の健康やQ.O.L.の向上を目指され、歯、歯肉、咬合、咀嚼、唾液、食生活、食育の大切さを、歯みがき講習会や歯みがき指導を通して訴え、啓発されてこられた。歯みがき指導は全学年が対象で、成長に合わせた指導が行われた。

3年前よりフッ化物洗口、3種の口の体操を取り入れた結果、DMFT指数の半減、インフルエンザ、嘔吐下痢症の改善が見られ、その取組について詳しく説明された。又、これからの健康教育の課題、咀嚼、唾液の効能、歯周病や不正咬合と顎偏位の悪影響について3つの症例を上げ説明された。

特別講演

「最近の口腔外傷の傾向と永久歯外傷への対応について」

福岡歯科大学 成長発達歯学講座 成育小児歯科学分野
教授 尾崎 正雄



講演にあたって、まず先生は学校災害共済給付制度の中で、歯の外傷による傷病見舞金支給の件数が、他の部位の外傷を大きく引き離して一番多い事を話していただきました。そこで、小児における外傷の実態として7～8才ぐらいが一番多く、その理由として、子供たちが積極的に体を動かさなくなり、外での遊びが少なくなり、発達段階に応じた、適切な指導者が不足している事を挙げられました。また、精神、身体の発達が未熟で、無鉄砲に行動したり、気分が変わりやすかったり、反抗的でけんかしやすい時期である事を指摘されました。

小児における永久歯外傷の問題点として、萌出直後の外傷が多く、根端の完成していない幼若永久歯の場合、歯内治療が困難で、歯周組織が安定するまで永久的な歯冠修復が出来ない事を話されました。また、歯列の発達を考慮した処置をしなければならず、根末完成の為に根の形成を進行させる様な処置が必要であり、大人の治療とは異なっています。また、乳歯の外傷であっても、永久歯への影響が起る事が多く、形態異常や、着色、萌出異常などが起る可能性があり、もし歯科健診時、その様な症状を発見した場合は、適切な指導が必要で、学校と学校歯科医が連携した初期治療が重要であると話されました。

そこで先生は、福岡歯科大学での8才児の症例を報告しながら、外傷歯の処置方法、幼若永久歯の歯内療法、歯根破折、外傷性歯牙脱臼、埋入歯、軟組織外傷などを多数の症例を報告しながら、説明していただきました。

最後に歯の外傷処置の要点として、歯髄を積極的に保存する努力を行い、歯根膜へのダメージを極力少なくする為に、保存液の確保また、保存液が無い場合、その代用液として牛乳、卵白などを使用することの紹介をしていただき、外傷時の初期対応の重要性、かかりつけ歯科医院・大学病院、及び整形外科との連携が外傷歯の予後の向上につながると話をしていただきました。

topics

第22回福岡県学校歯科保健研究大会が 西日本新聞に掲載されました。11月19日(日)18頁

コンクールで会長賞を受賞した子どもたち



子どもの歯の健康
福岡市で研究大会
子どもの歯や口の健康づくりについて考える県学校歯科保健研究大会（県学校歯科医会主催）が18日、福岡市中央区大名で開かれた。歯科や学校関係者ら約340人が参加し、虫歯予防の先進的な取り組みなどが報告された。

実践活動報告では、養護教諭や歯科医が事例を発表。北崎小学校（同市西区）の塚元依子養護教諭は、歯科検診に担任を立ち会わせたり、6年生が1年生に歯の磨き方を教えたりして歯の健康意識を高め、活動を地域や保育園にも広げたことを紹介。「歯の健康維持は継続が大事で、家庭や地域へつなげていくことに意味がある」と強調した。

図画コンクールなどの表彰式もあり、会長賞などを受賞した児童・生徒に表彰状が贈られた。

◇参加者の声（アンケートからの抜粋）

学校教育関係 7名、養護教諭・保健主事18名、学校栄養士・栄養士 2名、学校歯科医（含園医）10名、
歯科医師（校医以外）1名、歯科衛生士 5名、その他8名の計51名より回答を頂きました。

☆学校教育関係☆

○すばらしい実践発表ばかりで、是非本校でも取組みたいです。

また尾崎先生の外傷の増加については実感しています。そのためその対応についての講話は大変勉強になりました。

☆養護教諭☆

○参考になる資料がたくさんありました。特に養護教諭の方の報告が勉強になりました。今後の実践に生かしていきたいと思います。

○外傷について話がありましたが、学校における緊急時の対応について具体的な方法も教えていただきたいです。

○フッ素洗口の研修のたびに思いますが、学校としては実施校がどのような手順と時間配分で実施しているか、HOW TOが知りたいのです。

☆学校歯科医（含園医）☆

○福岡県、北九州両教育委員会との関係の強化、両教育委員会の指導要項、方針について知りたい。

☆歯科衛生士☆

○フッ化物洗口についてももう少し詳しいお話が聞きたかったです。



図画・ポスター・標語 会長賞



図画・ポスター・標語教育委員会賞



展示コーナーの様子

平成29年度第4回福岡県よい歯の学校表彰について報告

「よい歯の学校表彰」選出につきましては、以下の2つの事項を念頭に決定しました。

- ①前年度の「歯・口の健康診断結果統計調査」に基づき、DMF T0.5以下でカリエスフリー率が高い学校。
- ②学校規模（小規模校、中規模校、大規模校）。

選出につきましては、数値的に非常に近接した学校が多数あり難航いたしました。2つの事項を考慮して慎重に選出いたしました。



第4回福岡県よい歯の学校表彰 表彰校

田 川	添田町立落合小学校 学校歯科医 五嶋 淑雄
飯 塚	飯塚市立二瀬中学校 学校歯科医 原 博英
筑 紫	太宰府市立国分小学校 学校歯科医 小島 博司
柳川山門	みやま市立南小学校 学校歯科医 藤田 明弘
遠賀中間	遠賀町立浅木小学校 学校歯科医 古橋 泰介

第81回全国学校歯科保健研究大会

普及指導委員会担当理事 一之瀬 達也



北のまほろば青森の地において、平成29年10月26日・27日リンクステーション青森を会場として、910名の学校歯科保健関係者が集い、盛大に全国学校歯科保健研究大会が開催されました。

本会からは三箇副会長、平瀬専務理事、一之瀬が参加いたしました。

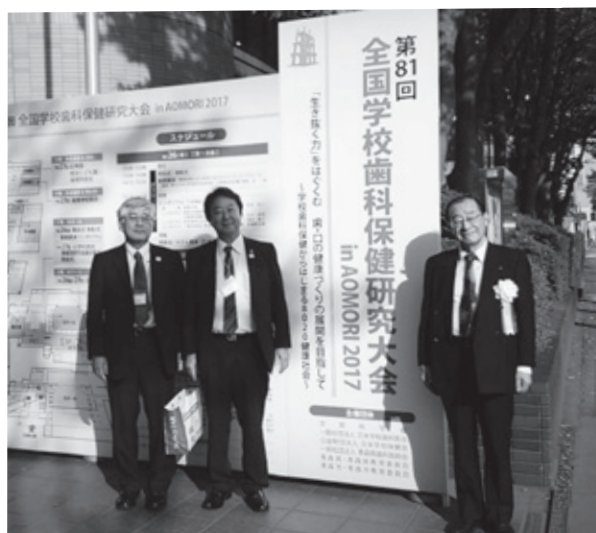
本大会の趣旨は、21世紀は「健康の世紀」といわれており、医療の潮流は治療から予防へシフトし、「健康社会」の確立に向けた宣言が全国の組織・団体等で行われています。我が国では8020達成者の増加や子供たちのう蝕の減少など、国民の歯・口の健康状態は改善しているが、一方で歯肉炎の増加や咀嚼機能の低下など、子供の頃からの生活習慣に起因すると思われる課題も見えてきました。

青森県歯科医師会が宣言した「8020健康社会」とは、地域住民が生涯にわたって自分の力でものを食べ、楽しく会話ができ、健康で質の高い生活を送ることができる社会と考えます。今日学校歯科保健に求められていることは、子供たちの発達の段階に応じてより良い生活習慣の習得をめざす「健康教育」であり、本大会では子供たちの健康格差を少しでも解消し、将来に「希望」がもてる

学校歯科保健活動を議論することにより、健康寿命への延伸に寄与する「8020健康社会」の実現を目指すものです。

10月26日にはホテル青森にて懇親会が開催され、青森県歯科医師会の先生方のご好意により、大間マグロの解体ショーをみせて頂き、本物の大間マグロをおいしくいただきさせていただきました。

次回第82回全国学校歯科保健研究大会は2018年12月6日・7日に沖縄県で開催予定です。なお本大会の開催が日本一の短命県から、青森が脱出できるきっかけになればいいと願います。



平成29年度 全国学校保健・安全研究大会 第67回全国学校歯科協議会

専務理事 平 瀬 久 義

平成29年11月16日（木）・17日（金）平成29年度全国学校保健・安全研究大会が、三重県津市の三重県総合文化センターで「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進」～自らの心身の健康を育み、安全を確保できる子供の育成～というテーマで開催された。

本大会は、学校保健に携わる関係者が一堂に会し研究協議するもので、杉原会長、三箇副会長と平瀬が参加した。

開会式において文部科学大臣表彰伝達式が行われ、三箇正人副会長、平瀬が出席し、翌17日は10の課題に分けて研究協議会が開催され、学校歯科に関しては、第5課題「歯・口の健康づくり」で“生涯にわたる健康管理の基盤となる歯・口の健康づくりの進め方”という標題で研究協議が進められた。上記標題で日本歯科大学福田雅臣教授を講師に迎え、東京都教育庁 山田善裕歯科保健担当課長と3名の養護教諭の研究発表が行われた。

また16日（木）は、第67回全国学校歯科医協議会が開催され、開会式、大臣表彰者紹介に引き続き、東京歯科大学臨床教授 森岡俊介先生による「歯科保健から見た児童虐待－学校歯科医の関わり方」と公益社団法人三重県歯科医師会副会長 羽根司人先生による「児童虐待予防三重県歯科医師会10年の歩み」という演題で講演が行われた。



養護教諭校外研修会報告

（対象は新規採用者、教職経験5年を経過した養護教諭）

常務理事 柳 迫 正 俊

福岡県教育委員会では、新規採用養護教諭に対して、「学校における健康教育を推進するための養護教諭の職務と責任の認識を深め、専門的知識・技能の向上に資する」を目的に、また教諭経験5年経過養護教諭に対しては、「保健活動を学校教育活動の一環として広い視野からとらえ資質向上を図る」を目的に、養護教諭校外研修が県立スポーツ科学情報センター（アクション福岡）で開催されています。今年度は11月9日に5年経過養護教諭研修、11月16日に新規採用養護教諭研修があり、それぞれ平瀬専務と柳迫が講師として出席いたしました。

新規採用養護教諭研修は「学校歯科保健活動の実際」という演題で、学校歯科保健の重要性和学校歯科健康診断の意義と目的、そして健診結果の活用方法と学校保健委員会の活性化などを講義し、学校管理下における外傷時の対応等についても話をしました。私は初めて講師として出席しましたが、熱心にメモを取りながら最後まで真剣に聞いてくれて、養護教諭のみなさんの熱意がひしひしと伝わり80分の講義時間が

あっという間に終わりました。その後、福岡県歯科衛生士会の松永副会長からは、学校現場での歯みがき指導や、手作りグッズを使った指導法の実演があり、大いに盛り上がったところで研修は終了しました。

今年の新規採用受講者は25名で世代交代も進み、このような活気あふれる熱心な先生方が学校現場で活躍してもらえれば学校保健教育はさらに活性化していくと思います。講義をする中で我々学校歯科医もその職務と役割の重要性を実感した1日でした。



在宅障害児の訪問歯科診療を行ない 学校歯科医として感じたこと

理事 松 田 宏 一

学校歯科医として30年を経ました。学校歯科医会の会議や研修会・講習会への参加、もちろん担当学校へ赴けば、自ずと学校歯科医としての見地に立つものであります。

しかし私の日常は、かかりつけ歯科医として診療室や訪問先の患家、病棟、施設において歯科診療を行う事で多くの時間を過ごしています。

今年度の県歯科医師会歯科医学会ポスターセッションで行った「重度障害児の在宅歯科診療・口腔ケアの依頼に応えて」の発表を振り返り、再考した事を述べます。

患者として診療にあたった児童は8歳になるうとしているミトコンドリア脳症を患っている重度の障害児でした。発病は2歳になる前で、何度も呼吸困難を繰り返し緊急入院を重ね、気切や胃瘻造設により安定して3年前より自宅にて訪問看護により維持されているタイミングで、看護師の指摘により当院へ口腔ケアの依頼となった。

患者であるKくんにとって、この5年間の当たり前だった茶褐色のザラザラした歯と出血を

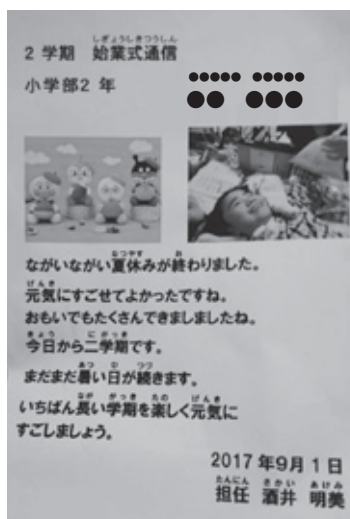
伴う赤く腫れた歯肉が、少しずつ変化して行く様を、医療介護に携わる皆で共有していく事になります。

最初は抵抗を示していましたが、見ず知らずの私たちを、不自由な手で払おうとする行為も無くなり、笑顔で迎えてくれるようになってきました。この半年間で3歯の交換期乳歯を手技にて脱落抜歯させました。今は、動揺度の増している乳歯の管理をしながら、口腔ケアの爽快感を楽しみ、更に新しい味覚への挑戦を試んでいます。大きな課題は、舌習癖による上下顎前突への対応です。

さて、Kくんを訪れる人は、医療介護関係者ばかりではありません。彼は、大牟田特別支援学校の小学部2年生であり、担任の先生から訪問学習の授業を受けています。

現在では、訪問教育で25名の児童生徒が学習しています。

その内16名が国立病院機構の病院に入院していて病院内の訪問学習の教室や体調が悪い時にはベッドで、他の9名が施設や自宅のベッドで



療養しながら訪問学習を受けています。

訪問学習は2時間のマンツーマン授業で、週3回行われます。授業内容は児童生徒の心身の状況により図工や音楽といった芸術系なものや、英会話、さらに進学のための勉強が行われる事もあるらしいです。児童生徒の状況やニーズに合わせて行われているという事です。

Kくんの授業は、担任の先生による、音楽を聴いたり絵を描いたり絵本や物語の朗読を聴いたりルーチンワークと、年に数回は、外国人講師による英会話のヒヤリングも行われるとのこと。

今回、訪問多職種連携の看護ステーションか



らの依頼でKくんの治療管理を行っています。患者さんとしてではなく、1人の小学生として考えると、もう数年早く学校歯科医の保健管理結果から依頼を受けていたのではないかと考えてしまいます。

訪問教育がこれ程充実して行われている事を知り、1人の学校歯科医として考えるところを感じたままに報告しました。

今回の報告に関して本会の執行部の皆様に感謝いたします。



歯鏡

今まで年2回の会誌発行だったが、今年度から会誌は年1回とし、新たにNews Letterを年3回発行することとなった。すでに1号、2号が先生方に届いていることと思う。会員の先生方のために、少しでも学校歯科活動を推進する上でお役に立てるものを、との思いで編集。お届けも少しでもタイムリーにお届けしたいとのことで、直接お一人お一人の会員に郵送することとした。忌憚のないご意見をぜひお聞きしたい。

2017年（平成29年）は、東京都議選で小池

旋風が吹きまくり、福岡県は7月、九州北部豪雨で大きな被害を受けた。そして、北朝鮮のミサイル、核問題が身近に迫る中、9月安倍総理から突然の衆議院解散、野党第1党の民進党が小池にはまって3分裂。自公連立政権が大勝した。また、上野動物園のパンダの赤ちゃん「シャンシャン（香香）」の誕生は明るい話題となった。

地水火風、様々な環境は私たちの喜怒哀楽に大きく作用するが、環境に振り回されことなく、今自分に与えられた道を自分らしく前進して行きたいものである。

副会長 三箇 正人

発達障害の視点からみた小児の食行動

福岡歯科大学
総合医学講座
小児科学分野
教授 鳥巢 浩幸



1. 発達障害
2. 発達障害児の食行動
3. 食行動の問題の背景
4. 食行動の問題への対応

子供の生活全体を丁寧に観察し特性に配慮し、発達障害児への対応法を参考にして食事の工夫を行い、子供が食事での満足感や楽しさが得られることを目標に、試行錯誤を重ねていくことが重要であると、非常にわかりやすく講演していただきました。

小学校における食育の実践 ～児童の実態と栄養教諭の 取り組み～

春日市立春日西小学校
栄養教諭
深田 恭代



平成17年4月に制度が開始された栄養教諭の職務内容と役割について述べられ、各学校における指導体制の要として食育の推進において重要な役割を担うことになった。

食に関する指導（幅広い視野を持ったコーディネーター的役割）と学校給食の管理（教育的配慮のある学校給食を提供）を一体のものとして行うことにより、学校全体の食育を推進することになったと述べられ、春日市立春日西小学校での取り組みについて実践報告をしていただきました。

朝食内容 偏食 遅食 食事のマナー 郷土料理 かみかみ献立 むし歯予防デー（6月4日）いい歯の日（11月8日）には、カルシウムが豊富で噛み応えのある献立 ファイバー献立 食育の日献立（毎月19日 玄米ご飯）世界の食事などなど栄養教諭ならではの子供達との関わりが楽しく報告されました。



講 話

こころの健康 ～人は陽性のストロークを 求めて生きている～

元福岡教育大学
心理相談員・看護師
飯田 一恵



1. ストローク

交流分析とは

- * 1957年アメリカのエリック・バーンによって創案された心理療法。
- * 日本には1972年、池見・杉田らにより導入された。
- * 自己を分析してみることにより、自己の性格上の特徴に気づき、他者との人間関係の改善を図るための方法である。

ストロークとは、ほかの人々から得られる言葉や行為、特徴のすべて。プラスのストロークはほかの人々の存在や価値を認める。言葉や行為すべての相互の働きかけはストロークのやり取り。

- (1) 人はプラスのストロークが不足するとマイナスのストロークを求める。
ストロークは心の栄養 栄養がないと人は生きていけないので飢餓状態になる。
無いよりはまし 無関心な親 中学生が万引き 親の関心が自分へ向く。
- (2) 人は条件付きのストロークをあまり与えられると、反抗して敵意を抱くようになる。
- (3) 人はプラスのストロークにより変化、成長する。
* あいさつ運動・・・意味が無くても良い
居ることを認めていることになるから。

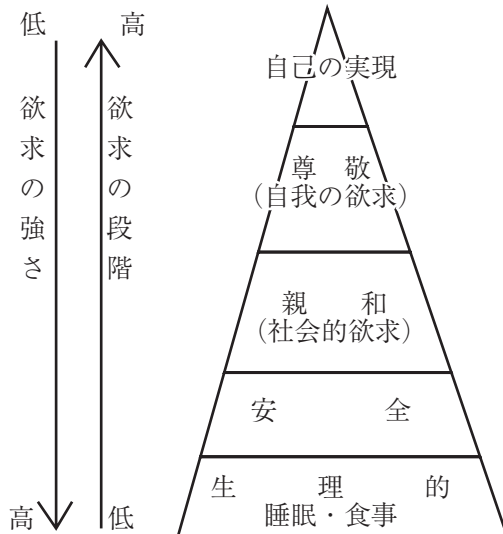
2. こころが健康であるということ

生涯発達心理学



『人は生きている限り、死ぬその日まで発達・進歩し続ける存在である』

愛と承認の欲求（マズローの欲求の五段階）



- ・ 潜在能力の完成・発展・利用
社会貢献
- ・ 自尊心・自負心を反映するもの
愛し愛されたい 認められたい
自由でありたい
- ・ 集団にメンバーとして所属し受け入れられる
家族・学校・職場
- ・ 安定した生活を送りたい
ケガや病気をしたくない
- ・ 生活そのものを支えるもの

プラスのストローク（ポジティブなストローク）

自分の存在が大切にされているとわかる。
価値ある人と思われているとわかる。

挨拶する 微笑む うなづく 顔を向ける
尊重する 褒める 励まし さわる
慰める 元気づけ 挑戦させる
お礼を言う 覚えている 気にかける
アイコンタクト 抱きしめる
ハグ ハイタッチ 握手

マイナスストローク（ネガティブな相手の心が痛むようなストローク）

悪口を言う 冷たい表情 にらむ
きつい口調 無視する 挨拶しない
話を聞こうとしない 話しに割り込む
乱暴な振る舞い 物音をたてる 叩く
蹴る ダメね 役立たず チビ デブ

- * ストロークはあげても減らない
余計に増える

- * もらえる時はもらうこと
- * 足りなくなったらもらいにいく
セルフストローク（自分は偉い）

ストローク不足の人がネガティブなストロークを集める。
そのような人には普段からストロークを交換しておく。
挨拶や雑談 雑談は潤滑油 しかし、深入りしない
尊遠

3. 精神的に疲れると（ストレスに気づくことが大事）

相談に来る人は・・・

自分で悩みがある・落ち込んでいる・元気が無い
→しかし、前向きに何とかしたいと思っている
心の意欲の扉が開いたから相談する
相談しようとすることは・・・

建設的なこと・生産的なこと
ところが弱いのではない

4. ストレスをためない生活 規則正しい生活が鍵

* 家庭は今日の疲れを癒し、明日へのエネルギーを充電するところ
過干渉、過保護はダメ 食事や、暖かいベッドで
お互いの意見を自由に言い合える雰囲気が大切

時には遠くに行く 物理的に離れることは、
心理的に離れることに

5. まとめ

相談している人は説教を聞きに来たのではない
愛情の含まれた言葉かけを
心理的なストレスは大きな出来事よりも、
むしろ「日常的におけるごたごた」の積み重ね

こうしなさいと言わないで言葉であれ、眼差しであれ、
見守るという気持ちが大切、関心を持っているよ。

迷うことに一緒に付き合う。最終的には本人が決定する。
「自己決定」→反省へとつながる（反省と後悔は
同じではない）

挨拶はあたたかいものとして心に響く。

総括

新学習指導要領に道德の時間が組み込まれます。
学校のみならず家庭・地域の人々が飯田 一恵先生
の講演の中にあるような心の持ち方で子供達に接
することを期待してやみません。

G O!! 学 校 へ 行 こ う

～北九州市立 港が丘小学校 学校保健委員会の活動～

学校歯科医 加 塩 大 輔

学校保健委員会とは、学校健診の結果をうけて児童の健康課題を抽出し、改善等を協議する場です。

私が校医をしている小学校では、H24年度から年に1度毎年開催されており9月の第2週に保護者の授業参観に合わせて行われています。

学校保健委員会は、13:00から始まり約1時間弱の時間行われ、出席者は校長、保健主事（養護教諭）、校医（歯科・内科・耳鼻科・眼科・薬剤師）、PTA役員、保健委員会の児童・保護者です。

授業参観に併せて実施するのは、保護者の出席のしやすさを考慮してです。

学校保健委員会の内容としては

- ・校長先生の挨拶
- ・養護教諭による健診結果を踏まえての課題の報告
- ・保健委員会の児童からの学校での健康増進への活動報告
- ・担当の校医による話
- ・各校医の専門的立場からの話となっています。

学校保健委員会が始まってから

- ・養護教諭「歯科検診の結果や保健室来室の様子について」
- ・歯 科 医「歯肉炎やブラッシングについて」
- ・養護教諭「感染症(インフルエンザ)について」
- ・内 科 医「新型インフルエンザ等について」
- ・養護教諭「生活の様子についてのアンケートの結果について」
- ・養護教諭「病院に搬送した目の怪我について」
- ・眼 科 医「色覚について」
- ・養護教諭「子供の健康プログラムの活用について（発育曲線の活用について）」
- ・薬 剤 師「薬物乱用防止について」
- ・養護教諭「歯と口の健康について」

・歯 科 医「口呼吸について」

といった内容について約10分から15分程、専門家の立場から保護者の方々にもわかりやすく解説します。

話す内容については、それぞれ担当の校医と養護教諭とでその年に先生が学校で感じている課題や、校医が最近話題になっているトピックスを踏まえて決めています。

毎年、学校保健委員会を開催して養護教諭とコミュニケーションをとっている為、学校での歯科保健に関わる取り組みが増えつつあるのを感じます。

例えば、給食後に「歯磨きソング」を放送し、その後歯磨きの時間を設けています。

又、学校保健委員会を通じて、普段顔を合わすことのない他科の先生、学校の先生、参加された保護者の方々と話をする事で、学校に関わっている方々との距離が近くなることも有意義だと考えます。

ただ、課題もあります。

幸い私が校医をしている小学校では他科の先生方もきちんと出席・発表をされますが、校医の先生が全く集まらない学校もあると聞きます。

更に、一番聞いて欲しい保護者の方々の集まりも悪く10人程、多くても20人程にとどまっています。

学校 校医からの一方的な情報の発信になり、協議にまで至らない。

教員の保健主事 養護教諭が中心で他の教員の関心が低い。

いろいろと課題はまだありますが、先程も書きましたが先生方とのコミュニケーションの向上・学校での歯科健康増進への取り組みの向上が期待されます。

学校保健委員会の開催校が増え、児童の口腔環境の改善につながればと思います。



平成29年度「歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール」審査結果

図画・ポスターコンクール 幼稚園

会長賞	朝倉	甘木双葉幼稚園	宮崎	栗那
入賞	飯塚	碓井ひかり幼稚園	のなか	りょうが
入賞	門司	鎮西保育園	伊崎	梨乃

図画・ポスターコンクール 小学校低学年

会長賞	直方	感田小学校	2年	角田	智哉
教育委員会賞	久留米	日吉小学校	2年	カブリド	望来
優秀賞	飯塚	桂川小学校	1年	藤原	ことは
優良賞	粕屋	篠栗小学校	1年	辻	誠史
佳作	田川	伊方小学校	3年	原田	翔汰
佳作	筑紫	筑紫東小学校	2年	武末	百夏
佳作	朝倉	蟠城小学校	3年	井上	友貴
入賞	京都	行橋北小学校	3年	宇都宮	煌生
	豊前築上	唐原小学校	3年	杉岡	紗衣
	宗像	福岡南小学校	2年	えぐま	みゆう
	小郡三井	小郡小学校	3年	宮園	真緒
	浮羽	福富小学校	3年	ブルース	亜美
	八女筑後	羽犬塚小学校	2年	市川	幸芽
	大川三瀧	川口小学校	2年	古賀	蒼汰
	柳川山門	六合小学校	1年	つつみ	ゆあん
	大牟田	高取小学校	1年	桐原	綾花
	門司	柄杓田小学校	2年	中井	ゆい
	小倉	長尾小学校	3年	新崎	巧実
	若松	深町小学校	1年	木山	由佳理

図画・ポスターコンクール 小学校高学年

会長賞	柳川山門	下庄小学校	5年	森	千晃
教育委員会賞	久留米	京町小学校	6年	初田	桜花
優秀賞	浮羽	御幸小学校	5年	土岐	実鈴
優良賞	朝倉	蟠城小学校	5年	西岡	舞依
佳作	京都	諫山小学校	6年	樋口	奄那
佳作	田川	落合小学校	6年	植山	茜
佳作	飯塚	立岩小学校	6年	吉田	薫乃
入賞	豊前築上	唐原小学校	6年	木高	良徳
	宗像	地島小学校	4年	山下	さくら
	粕屋	篠栗小学校	5年	太田	愛乃
	筑紫	大利小学校	5年	後藤	遥
	小郡三井	のぞみが丘小学校	6年	井上	心瑚
	大川三瀧	木佐木小学校	6年	久良木	隆文
	大牟田	銀水小学校	6年	森	優香里
	門司	伊川小学校	5年	野上	素晴
	小倉	寿山小学校	5年	宮部	瑚子
	若松	古前小学校	4年	上野	友美永
	八幡	高槻小学校	6年	樋山	美結

図画・ポスターコンクール 中学生

会長賞	筑紫	春日野中学校	2年	三井	すみれ
教育委員会賞	飯塚	飯塚第一中学校	3年	梶原	千春
優秀賞	八女筑後	輝翔館中等教育学校	2年	岩津	歩佳
優良賞	久留米	北野中学校	3年	西山	美晴

佳作	田川	金田中学校	2年	村上	季美果
佳作	朝倉	南陵中学校	3年	原野	結衣
佳作	門司	緑丘中学校	1年	堺	美沙希
入賞	京都	長峽中学校	2年	森下	千愛
	豊前築上	上毛中学校	3年	楠本	愛香
	宗像	河東中学校	2年	中山	こはる
	粕屋	篠栗北中学校	2年	杉本	凜
	糸島	二丈中学校	3年	古賀	桃奈
	大牟田	明光学園中学校	2年	江崎	仁菜
	小倉	板櫃中学校	2年	大石	遥
	若松	高須中学校	1年	松波	未久
	八幡	上津役中学校	1年	右田	桃羽

図画・ポスターコンクール 高等学校

会長賞	若松	若松商業高等学校	3年	林	ひな
教育委員会賞	八女筑後	輝翔館中等教育学校	4年	平塚	志保

図画・ポスターコンクール 特別支援学校

会長賞	久留米	久留米聴覚特別支援学校	1年	空閑	信次朗
教育委員会賞	小郡三井	小郡特別支援学校小学部	3年	足立	賢斗
優良賞	直方	直方特別支援学校小学部	1年	阿部	光璃
佳作	豊前築上	築城特別支援学校小学部	5年	田向	凌

標語

会長賞	朝倉	東峰中学校	3年	太田	康介
教育委員会賞	京都	仲津中学校	3年	森	早希
優秀賞	遠賀中間	岡垣中学校	2年	一樂	海斗
優良賞	筑紫	南畑小学校	5年	三苦	敬祐
入賞	豊前築上	南吉富小学校	1年	小野	詩真
	田川	落合小学校	6年	梅野	陽生
	直方	小竹北小学校	5年	中川	一妃
	飯塚	牛隈小学校	1年	畑中	樹
	宗像	東郷小学校	6年	梅本	一愛
	八女筑後	忠見小学校	3年	川口	陽菜
	小倉	南小倉中学校	1年	西村	恵生
	戸畑	一枝小学校	5年	鶴	柚奈
	若松	古前小学校	4年	サイラス	タクトブルーナー
	八幡	上津役小学校	6年	古賀	柚希



審査会にて(合田賢治先生、三箇副会長、須ノ内副会長、平瀬専務理事、柳迫常務理事)

平成29年度
歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール受賞者



幼稚園
朝倉 甘木双葉幼稚園 年長 宮崎 栞那



小学校低学年
直方 感田小学校2年 角田 智哉



小学校高学年
柳川山門 下庄小学校5年 森 千晃



中学生
筑紫 春日野中学校2年 三井 すみれ



高校生
若松 若松商業高等学校3年 林 ひな



特別支援学校
久留米 久留米特別支援学校1年 空閑 信次朗

教育委員会賞



小学校低学年

久留米 日吉小学校2年
カブリド 望来



特別支援学校

小郡三井 小郡特別支援学校 小学部3年
足立 賢斗



小学校高学年

久留米 京町小学校6年
初田 桜花



中学生

飯 塚 飯塚第一中学校3年
梶原 千春



中学生

八女筑後 輝翔館中等教育学校4年
平塚 志保

優秀賞



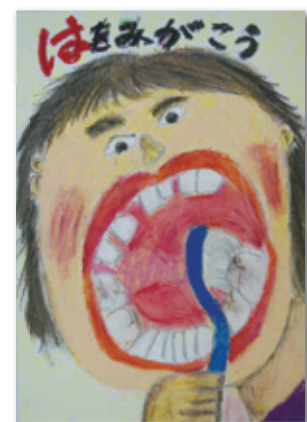
中学生

八女筑後 輝翔館中等教育学校2年
岩津 歩佳



小学校高学年

浮羽 御幸小学校5年
土岐 実鈴



小学校低学年

飯 塚 桂川小学校1年
藤原 ことは

優良賞



朝 倉 蟬城小学校5年
西岡 舞依



久留米 北野中学校3年
西山 美晴



粕 屋 篠栗小学校1年
辻 誠史



直方 直方特別支援学校 小学部1年
阿部 光璃

佳作



田 川 落合小学校6年
植山 茜



田 川 伊方小学校3年
原田 翔汰



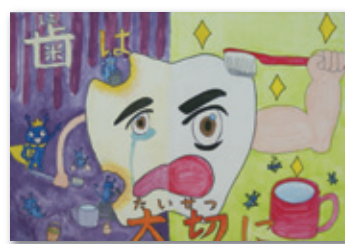
筑 紫 筑紫東小学校2年
武末 百夏



門 司 緑丘中学校1年
堺 美沙希



朝 倉 蟬城小学校3年
井上 友貴



京 都 諫山小学校6年
樋口 奄那



飯 塚 立岩小学校6年
吉田 薫乃



田 川 金田中学校2年
村上 季美果



朝 倉 南陵中学校3年
原野 結衣



豊前築上 築城特別支援学校 小学部5年
田向 凌

標 語

優良賞

食べる時
生きものに感謝
歯に感謝

筑紫 南畑小学校5年 三苦 敬祐

優秀賞

毎日の
努力の結晶 きれいな歯

遠賀中間 岡垣中学校2年 一樂 海斗

教育委員会賞

歯磨きは
自分みがきの 第一歩

京都 仲津中学校3年 森 早希

会長賞

よく噛んで
勉強・スポーツ 万能に

朝倉 東峰中学校3年
太田 康介

平成29年度 歯・口の健康に関する図画・ポスター審査 総評

福岡県教育センター 産業・情報教育部 情報教育班 主任指導主事 合田 賢治先生

【選後感】

○総評

どの作品も画面全体を使って描かれており、惹きこまれる作品ばかりでした。

また、日常的な歯みがきの習慣作りだけでなく、歯・口の健康づくりを通じて、生涯にわたって健康な生活を送りたいという願いが込められた作品が多く見られました。

○小学校低学年の部

低学年の子供たちは描きたいものを中心に大きく描きますので、すべての歯が見えるくらい大きな口を開けて歯みがきをする様子を描いた絵が多く見られました。先生方の丁寧なご指導によりダイナミックな線で表現されており、歯みがきの気持ちよさが伝わってきました。

○小学校高学年の部

高学年になると、思いついたアイデアを表現しようとする画面構成の工夫が多く見られました。特に「どこから見ているのか」という視座を工夫した作品は、見ていると画面の中に惹きこまれます。また、画面を2分割して比較提示することにより、伝えたいことをよりわかりやすく表現しようとした作品も複数見られ、子供たちが構想の段階で様々なアイデアを巡らせている様子が伺えました。

○中学生の部

自分が描きたい作品のイメージと伝えたい内容が明確にあり、これまでに身に付けた知識、発想・構想の能力や技能を発揮しながら、表現自体を楽しんでいる様子が伝わってきました。表現スタイルもバリエーションに富んでおり、健康の大切さを弾けるようにアピールした作品は特に目を惹きました。イメージに合うように、とても優しい色づかいでまとめようとした作品が複数ありましたが、淡色で同系色だとせっかく描いたものが埋もれてしまい、とてももったいないように感じました。

○特別支援学校の部

どの絵からも、夢中になって画用紙に向かって描いている子供たちの姿が目につきました。描くことが大好きなお子さんが、クレパスを手にとって大きく口を開けた顔をのびのびと描いたあとに、好きな文字を顔の周りにかき込んでいる作品からは、作り上げた喜びが伝わってきました。

○高等学校の部

作品は少なかったのですが、むし歯予防の大切さを訴えるメッセージが伝わるように、色鮮やかな赤色が効果的に使われていました。単純な表現と深みのある表現との組み合わせ方のバランスがよく、絵がよくまとまっていました。

【作品審査を終えて】

「歯・口の健康づくり」＝「歯みがき」と理解されているためか、大きな口を開けて歯を磨いている様子や、むし歯によって悲しんでいる様子の表現が多くを占めています。長年同様の作品を目にすることが多く、アイデアの新鮮さという点からは、もう一工夫ほしいところです。そのため、ご指導される指導者の先生方には、是非、イメージを膨らませる構想の段階を大切に、子供たちと話し合いながら、子供たちの自由な発想を引き出していただきたいと思います。

目を惹く作品からは、「心地よさ」が伝わってきます。「歯みがきをしないとこうなりますよ」というような伝え方だけでなく、食を通して歯・口の健康づくりや望ましい生活習慣の形成など、みんなが生涯にわたって「笑顔でいられる」というような、はつらつとした表現がもっとも増えてもいいのではないのでしょうか。

最後に、今回多くのすばらしい作品に出合わせていただいたことに感謝いたします。

ありがとうございました。

『三方よし』の歯科医療

〈京都〉 増 田 憲 治

今年も幼稚園・保育園・小学校の指導啓発、福岡県学校歯科保健研究大会への参加、県学歯への推薦図画・ポスター選定、小中学校歯科健康診断の結果集計、行橋市学校保健会、京都郡学校保健会への参加、健康フェア首長賞選定と盛りだくさんであった。

健康診断結果の結果集計は、以前は電卓を使って各委員で少数点以下3桁まではじいてデータを出していましたが、県学歯作成の健康診断集計ソフトにより大幅な時間節約ができるようになりました。しかし基本的なデータは手作業で打ち込んでいかねばならず、膨大な時間を有することには変わりはありません。

喜ばしき事は毎年、健康診断結果を提出してくださる学校が増えつつあるということです。これも京都歯科医師会会長をはじめ校医の先生方による働きかけによるものだと感謝しております。しかしながら学校側も定期的に校長先生、養護の先生の移動があり、今まで提出してくださった学校も突然、未提出になることもあります。そこで、春の歯科健康診断時の結果提出をしてくださるように校医を通じて校長先生、養護の先生に言葉添えをお願いしております。また、各学校歯科医の先生へは歯科健康診断にあたり、より正確なデータ作製をするために初期う蝕C O、歯肉の状態G O、Gの記入もお願いしている状況

です。

県学歯ではこの健康診断結果の提出により、より正確なデータが確立していくものと思われます。しかしながら委員は歯科健康診断の結果集計は一年に一回のためか何年やってもこの時期に悩み考えこんでしまうのも事実です。県学歯に推薦する図画・ポスター選定におきましては今年も小学校低学年のバラエティに富んだ作風と高学年の個性豊かな作品に驚かされています。

近江商人の心得に、『三方よし』という言葉があります。「売り手よし、買い手よし、世間よし」というものです。医療でいえば「患者よし、歯科医師よし、社会よし」とでも置き換えることができるのでしょうか。もちろん医療は一般の商売とは異なりますが、治療を受けた患者さんが喜び、施術した歯科医師が潤い、健康な子供が増えることにより社会が良くなるということになれば、まさに『三方よし』です。

そのためにはわれわれ京都歯科医師会会員の努力はもちろん、患者さんの協力、行政の力も必要です。私たち京都歯科医師会会員は知恵を絞り、努力は惜まず、会員が力を合わせて『三方よし』の歯科医療を目指し、健康づくりの輪を広げられればと思っております。



健康な歯の大切さ

〈豊前築上〉高 村 伊都子

7月12日（水）19時から、豊前市の豊前築上歯科医師会館内で啓発ポスターと標語の審査を行なった。

ポスター審査には、豊前市美術展副会長の清水めぐみ先生をお招きして厳正な選抜をいただいた。

地域の小、中学校からは多くの作品の応募をいただき、なかでも支援学校の生徒の作品は切り絵とカラフルな色づかいで画用紙いっぱいに口の中を描いてくれていて、とても心ひかれました。

他の作品もどれも一生懸命に描かれていて審査の先生の頭を悩ませていたようだった。

結果、733の応募の中から4作品の県への出展が決定した。

標語の審査では子供目線のほのぼのとした低学年の作品から啓発に特化した高学年の作品までさまざまな視点からよく考えられている作品が多かった。

私たち歯科医が子供たちに伝えたい、「健康な歯の大切さ」についてこの事業を通して子供たち自らが感じられているということは素晴らしいことだと思う。

来年もさらに多くの応募があることを願っています。



歯と口の健康週間での取り組み

〈直方〉朝 永 俊 介

直方歯科医師会では、毎年6月に、直方歯科医師会館において、「歯と口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール」の入選作品の展示会と、優秀者表彰式を行っております。

今年は、6月10日（土）14時から直方歯科医師会館にて表彰式及び入選作品の展示を行いました。

ポスター・標語コンクールには、近隣の小中学校から多数の応募があり、ポスター・標語それぞれから歯科医師会長賞などを選出し、受賞者及び父母らが参加して表彰式が行われました。今回は、力作ぞろいでポスターや標語から製作者のメッセージがよく伝わる作品が多く、青木会長をはじめとした審査員の先生方もかなり迷われたとの事でした。

本会の青木会長から入賞した児童・生徒一人ひとりに賞状と記念品が渡され、会場内からは祝福の声と大きな拍手がおこっていました。そして最後に受賞者全員での写真撮影を行い終了しました。

尚、この時の受賞者である小学校2年生の

角田智哉くんの作品が、見事福岡県学校歯科医会の審査で会長賞を受賞しました。

またそれと同時に本会では、会館内にて、歯科無料相談と無料フッ化物塗布を実施しました。

この事業も毎年行われているもので、近隣の皆様が多く来場し、歯科医院ではなかなか言いにくい事を相談されていたように思います。

これとは別に直方歯科医師会では、歯と口の健康週間の6月4日（日）から10日（土）までの間と「いいな、いい歯。」週間の11月7日（火）から13日（月）までの間に、地域の小中学校にチラシを配布し、無料フッ化物塗布と歯科無料相談を本会員の各医院にて行っております。

例年多数の児童、生徒が医院を訪れているようですし、口腔内環境の向上にも貢献していると思われます。

直方歯科医師会では、今後も地域のニーズに応えるべく様々な企画を模索し、実行していきたいと考えています。



入賞者と記念撮影



直方歯科医師会 会長賞

平成29年度図画・ポスター審査会について

〈宗像〉入 江 祐 彰

宗像歯科医師会学校歯科委員会では毎年、「歯・口の健康に関する歯科保健図画・ポスターならびに健康啓発標語コンクール」を行っております。宗像歯科医師会は宗像市・福津市を管轄しており、現在、宗像市には小学校15校、中学校8校、福津市には小学校7校、中学校3校ございます。本年度は両市から、図画・ポスターは小学校6校より440枚、中学校2校より5枚の合計445枚、標語は小学校1校から合計341枚の応募がありました。

平成29年7月8日（土）午前9時より、宗像歯科医師会館において宗像歯科医師会学校歯科委員会古賀清和理事と共に、当地の画家である白石隆幸先生ならびに外山良治先生の2名をお招きして、会議室の机いっばいに図画・ポスターを並べて、平成29年度図画・ポスター審査会が開かれました。

厳正なる審査の結果、52枚の入選作品が選出され、さらにその中から3名の宗像歯科医師会会長賞が選ばれました。また、福岡県学校歯科医会が主催する「平成29年度歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンク

ル」に3枚の作品が推薦され、小学校低学年・小学校高学年・中学生の部でそれぞれ入賞を果たしました。

図画・ポスター入選作品は例年通り、平成29年7月24日（月）から8月25日（金）の夏休み期間中に西日本シティ銀行のご厚意により、4支店にわたり10枚前後をロビーに展示していただきました。

入選した生徒や保護者の方はもちろん、来店した多くの人々の目に留まり、心なごませたことと思います。各支店ごとにも支店長賞が決められました。

また、標語は3名の入選者が決定し、うち1名は県学歯主催の「平成29年度歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール」で入賞となりました。

後日、宗像歯科医師会より、入選者には賞状と記念品、惜しくも入選にもれた応募者にも参加賞が学校医を通じて送られました。今後も愛をこめてこの事業を継続していきたいと思っています。



審査をする白石・外山画伯の様子



食と健口づくりフェスタ2017

歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール表彰式

〈筑紫〉岡 村 博 久

こんにちは、筑紫学校歯科医会です。筑紫学校歯科医会では、「歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール」と題して、図画・ポスターと標語を筑紫地区（春日市、大野城市、筑紫野市、太宰府市、那珂川町）の小・中学校と特別支援学校から募集しています。平成29年度、図画ポスターの部は、小学校1,879点、中学校191点、特別支援学校15点、合計2,085点。標語は小学校688点、中学校942点、合計1,630点ご応募いただきました。

図画ポスターの部は、5月21日(日)筑紫歯科医師会館大ホールにおいて、筑紫地区の中学校美術教諭の先生と、筑紫学校歯科医会会長以下理事10名で、歯科医師の意見も交えながら、また、標語は筑紫地区中学校国語研究会の先生方をお願いして、厳正なる審査を行いました。

優秀作品は、「歯を磨く」、「歯を大切にする」ということを生活の中で、より身近なものとして考えさせられる工夫がなされ、8020運動をうたった作品も見られ一生懸命描かれた作品ばかりでした。この作品を見ていただいた来館者の方々が、歯を大切にしてください、8020はおろか8025、8030を目指していただきたいと思いますってやみません。



平成29年6月4日（日）、大野城市の「大野城市すこやか交流プラザ」において開催された、第40回歯を守る集い「食と健口づくりフェスタ2017」において、小・中学校各学年の最優秀賞、優秀賞の児童生徒さんたちをお招きし、表彰式を行いました。

中でも、福岡県学校歯科医会へ上程する最優秀賞の作品には、大野城市 市長賞、大野城市 教育委員会教育長賞、福岡県学校歯科医会会長賞、筑紫歯科医師会 会長賞が授与されました。井本市長、吉富教育長、須ノ内福岡県学校歯科医会副会長、魚住筑紫歯科医師会会長にもご出席いただき、直接授与していただきました。

筑紫地区養護教諭研究会のご来賓の先生方、ご家族や学校関係者の方々にも多数ご参列いただき、飛び入りで大野城市のゆるキャラ「大野ジョー君」も駆けつけ、元気なチビっ子たちが会場を駆け回りアットホームな表彰式でした。

また、入選された作品は、同会場多目的ホールに展示され、作品の前では入賞した子供たちが、記念写真やビデオ撮影で楽しそうににぎわっていました。

来年度は太宰府市での開催予定です。



新会場で心機一転 「歯ミング 21 in あさくら」

〈朝倉〉古 賀 祥 朗

5月27日（土）に「歯・口の健康に関する図画・ポスター」、「歯・口の健康啓発標語」の審査会を西日本シティ銀行甘木支店で行った。今年は幼稚園が21名、小学生が2,484名、中学生が866名で素晴らしい作品が数多く集まり厳正な審査を行った。高校からの応募作品が未だに出されないのは少々残念ではあるが、今後の課題としたい。

6月11日（日）午前9時30分から朝倉市のピーポート甘木で、朝倉歯科医師会や朝倉市との共催による「第8回 歯ミング21 in あさくら」を開催した。これは先の「図画・ポスター」、「標語」の優秀作品とその受賞者を称える表彰式などを併せて催すことで、地域の方々に歯科医療をもっと身近に感じていただき、「歯と口の健康週間・『おいしい』と『元気』を支える丈夫な歯」をアピールする目的でおこなわれるイベントである。今回から新会場のピーポート甘木の中ホールが使用された。広くなった会場では様々なコーナーが新規に追加された。心配された新会場でのイベントは無事終了した。

なお、前述の優秀作品は西日本シティ銀行甘木支店、ピーポート甘木・中ホールと展示

コーナー、イオン甘木店で約2ヵ月間かけて順次展示された。

また、これまで朝倉学校歯科医会と朝倉歯科医師会は峻別をはかってきたが、6月17日におこなわれた定時総会にて朝倉学校歯科医会が朝倉歯科医師会に取り込まれることが可決・承認された。これにより、朝倉学校歯科医会は朝倉歯科医師会の傘下に置かれることになり、会長も朝倉歯科医師会の井上会長が兼任されることとなった。これまで10余年に亘って朝倉学校歯科医会会長を務めてこられた草場先生、本当にお疲れ様でした。

そして忘れられないのが7月5日に発災した平成29年7月九州北部豪雨である。当会担当地区での児童や生徒の事故がなくて幸いであるが、この激甚災害によってどのような影響が歯と口に対して現れるのか注視していく必要がある。そのためにも「歯・口の健康診断結果統計調査」目的に、小・中学校に福岡県学校歯科医会への健診結果の提出を呼びかけているが、被災地の小学校などでは書類などが失われている可能性もあり、そう簡単な話では済まないのかもしれない。



「歯・口の健康に関する図画・ポスター」、「歯・口の健康啓発標語」審査後、受賞した展示作品の前に整列した朝倉学校歯科医会委員会



「歯ミング21 in あさくら」受賞式後、記念撮影をする表彰者たちと朝倉学校歯科医会・草場会長、島添副会長、松原副会長（役職はいずれも当時のもの）

平成29年度 図画・ポスター・標語の表彰式

〈八女筑後〉田 中 秀 明

11月8日（土）午後3時から八女筑後歯科医師会館で、平成29年度歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語のコンクールの表彰式が行われました。

八女筑後歯科医師会 馬田会長は挨拶で、「小・中・高校生の皆さんは図画・ポスターや標語を考える時、歯について考えてもらったと思いますが、歯がしみたり痛かったりすると咬むことができなくなり、勉強やスポーツに力を発揮できなくなります」と述べられました。さらに、「口の中の健康が損なわれると悪さをする菌が全身に回り、心臓病、脳梗塞、糖尿病といった全身の病気にも影響します」と話され、しっかり歯磨きをして心身ともに健康で生活し、学校生活を豊かにしましょうと挨拶されました。

続く表彰式では八女筑後学校歯科医会 山崎会長が登壇され、地区から集まった約500もの作品の中から優秀な作品が選ばれましたが、さらにその中から県学歯の優秀賞（輝翔館2年

岩津歩佳さん）、教育委員会賞（輝翔館4年 平塚志保さん）、入賞2名（羽犬塚小2年 市川幸芽さん、忠見小3年 川口陽菜さん 標語）が選ばれ、とても嬉しく思いますと挨拶されました。

表彰を受ける児童生徒らは、一人ひとり名前を呼ばれると緊張した面持ちで壇上へ上がり表彰されました。山崎学校歯科医会長より賞状と記念品を受け取ると少しはにかみながら笑顔のをぞかせ、会場で見守る保護者の方々もその誇らしげな姿を見てとても喜ばれている様子でありました。

表彰後、受賞した平塚志保さんへ「作品の構想は」と尋ねると「書く途中でイメージが浮かんできた」と答え、岩津歩佳さんへ作品にかかった時間と聞くと「何週間かかりました」と答えていました。また、小学2年生市川幸芽さんへは受賞の感想を尋ねると、「少し難しかったです」と答え、ぜひ来年も出品して会長賞を取って下さいと話すと恥ずかしそうに「はい」と答えていました。



歯の健康フェア

6月10日（土）午後2時から、柳川山門歯科医師会館にて、「歯の健康フェア」を開催した。

回覧板へのチラシの折り込みや公共機関へのポスター掲示、会員各医院でのポスター掲示、チラシ配布、地元の新聞社や市報での広報の甲斐もあり、当日は160名の来場者があり盛況であった。

歯科医師による歯科健康診断、8020健康診断、歯科相談、歯科衛生士による歯磨き指導、フッ化物塗布、久留米大学の専門医によるお口のがん検診、南筑後保健福祉環境事務所の保健師や管理栄養士による健康チェックが行われた。

1階では、久留米大学医学部歯科口腔医療センターの専門医により45名のがん検診をおこなった。幸い心配されるような症例はなかった。

また、2階では、115名が受付、歯科健康診断を受診し、その中で89名が歯科衛生士に

〈柳川山門〉松 藤 拓 之

よる歯磨き指導を受けていた。子供から年配の方まで、それぞれに応じた専門的な指導を受け感銘を受けていた。

また、口がきれいになった子供の25名がバイオキュアによるフッ化物イオン導入を受け、11名が衛生士会によるフッ化物塗布を受けた。

さらに、「いきいき健康づくり応援事業」の一環として県民の自主的健康づくりを支援し、生活習慣病の予防を図るためのきっかけを提供するために始まった福岡県南筑後保健福祉環境事務所の保健師による健康チェック50名の参加者があり、去年の31名と比べて大幅に増加した。

去年は、歯の健康フェアの日は雨であったが今年は大変天気が良く、来場者も増加したため混雑したが、来場された方全て、熱心に説明に耳を傾けられていた。歯の健康フェアは、本会の6月の恒例行事であるが、地域の方々が、年々、歯や口を含め、健康に関して、関心を深められていることを痛切に感じる。



学校歯科医研修会

〈大牟田〉高 村 聖 一

大牟田歯科医師会学校保健委員会では、毎年、学校歯科医研修会を開催して、大牟田市および高田地区の小学生・中学生の歯と歯ぐきの統計調査報告と特別講演会を行っております。大牟田歯科医師会の学校歯科医のみならず、会員および会員スタッフのほか、小学校・中学校の校長先生や養護教諭、教育委員会学務課課長はじめ市職員の方々、歯科衛生士会の方にも参加して頂き、時間を共有して子供たちの口を通しての健康について共に考える機会になっています。

特別講演には、H24年・食と言葉の力で子供を元気に～家庭がパワースポット～福田泰三先生、H25年・樹も森も見える健康教育～九大「いのちの授業」「自炊塾」からのメッセージ～比良松道一先生、H26年・世界で一番聞きたいおもしろ保健指導&健康教育論岡崎好秀先生、H27年・子供の未来をみつめ、連携した支援で「健口教育」から「健幸教育」へ田中さえ子先生と、広く活躍中の先生方に講演を快く引き受けて頂きました。毎年、興味深い内容で来場者に喜んでいただいています。昨年は子供たちの健やかな成長を願って～食から、口から、私から～との演題で舞

鶴小学校の稲益義宏先生にご講演頂きました。稲益先生は、子供たちの自主性を育む教育に重点を置かれています。舞鶴小学校での食の取り組みで、子供たちの自分で作るお弁当は、とても素晴らしいものでした。そして、自分で作った時のその顔は、出来がよくても悪くても自信あふれるすてきな笑顔でした。上級生の作るお弁当をうらやましく思いながら上級生を見つめていた下級生も、上級生になると今度は下級生にうらやましく思われるようになる、そんな継続的な取り組みにも感心しました。食に対して子供たちが興味を持つこと、考えること、自主的に取り組むことは、子供たちが『自分の体を自分で守る』という意識づけにとっても役立つことだと感じますし、毎日食事を作ってくれる家族に対し感謝の心が引き出されることにも注目です。これからも学校歯科医研修会を通して、よりよい情報の共有を行っていききたいと思います。今年は特別講演として福岡歯科大学成長発達歯学講座成育小児歯科学分野教授の尾崎正雄先生をお招き致します。う蝕・歯肉炎・口腔機能障害そして健康教育について幅広く講演していただく予定です。



稲益義宏先生と永江正廣会長



熱く講演中の稲益義宏先生

歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクールの審査選考と表彰式

〈小倉〉上 田 雄 造

平成29年7月5日（水）の午後7時30分より小倉歯科医師会館において、「歯・口の健康に関する図画・ポスター」コンクールの審査会を行いました。審査には、北九州市立教育センター指導主事の砂田猛志先生に審査員を務めていただきました。

図画・ポスターの応募に小倉北区・南区の小・中学校で選抜された159作品が出品されました。審査の結果、最優秀の小学校2作品と中学校1作品を、福岡県学校歯科医会へ推薦しました。

標語は、小・中学校あわせて1,911編と多くの応募がありました。標語の選考は、小倉歯科医師会学校歯科保健委員会で10編を選んだあと、その中から特に優れたもの1編を福岡県学校歯科医会へ推薦しました。

平成29年11月12日(日)の午前10時より、小倉歯科医師会館において、今年で12回目となる「いいな、いい歯。」フェアが開催されました。

今年のフェアは「はは歯と笑ってお口の学習」をテーマに、落語を通して、日頃何気なく食べて、話して、そして呼吸してと、大活躍の口に目を向けてもらい、その大切さを再認識していただきました。

フェアのコーナーでは落語寄席以外にも、

九州歯科大学教授による口腔がん検診、口臭チェック、咀嚼能力チェック、健口相談とともに、よい歯の学童・高齢者の表彰ならびに図画・ポスター・標語の表彰が併せて行われました。

表彰者の内訳は、よい歯の学童37名、よい歯の高齢者27名、そして図画・ポスター19名、標語10名の計93名でした。93名の受賞者の内、54名が表彰式に参列されました。

高齢者の欠席者には推薦した小倉歯科医師会会員が、学童・生徒の欠席者には各小・中学校より後日、賞状と記念品をお渡しいたしました。

表彰式では、小倉歯科医師会 榎本通典会長より、一人ひとりに賞状と記念品が授与されました。式には学童はもとより保護者や学校長・担任教諭・養護教諭など学校関係者、そして高齢者には付き添いの方の出席もあり、式は盛大に行われました。

表彰式では、今回初めて、氏名や図画・ポスター・標語の作品を会場正面の大型スクリーンに映し、臨場感あふれる雰囲気は、大変好評でした。

最後に来賓の砂田先生により、ご講評をいただき表彰式を無事終了することができました。



「いいな、いい歯。」フェア 表彰式の様子
よ防さんと小倉歯科医師会会長 榎本通典 先生

戸畑歯科医師会における学校歯科保健活動について

〈戸畑〉柴 田 和 成

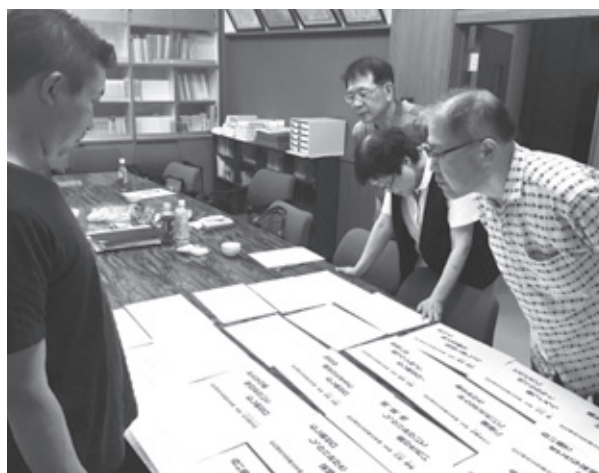
平成29年4月7日（金）午後7時より戸畑区医師会医療センターで平成29年度学校保健業務打合会が行われました。春の歯科健診が始まる前に、教育委員会、学校、医師会、歯科医師会の担当者が集まり、顔合わせ、情報伝達、懇親会を毎年行っています。

4月5日（水）には戸畑歯科医師会の月例会において、学術・学校委員会より健診内容の説明、フッ化物塗布の説明を行いました。校医、協力医が同じ情報を共有し、健診時のばらつきを軽減するようにしています。7月18日（火）に行った委員会では平成29年度の歯科保健図画・ポスター・標語の選定を行いました。児童、生徒の図画や標語を見ると大人の視点と違うところで口腔や健康を見ている感性に毎年びっくり

し、気付きを感じます。私達の仕事の重要性を再認識しています。8月8日（火）には秋の臨時歯科健診、フッ化物塗布の日程調整を行い、9月の月例会時に、再度健診時とフッ化物塗布時の注意事項の説明を行いました。

このように委員会活動が続き、来春にはまた健診の日程調整が始まります。日々自医院の診療が忙しい中、一個人に歯科健診の負担が集中しないように、委員会で舵取りを行っています。

当会は会員数が少ないのですが、それを理由に戸畑区の学校歯科保健活動に支障がないように、これからも頑張っていく所存です。



八幡歯科医師会における学校歯科保健活動について

〈八幡〉楠 本 俊 司

八幡歯科医師会では、毎年学校歯科健診が始まる前の年度末に、学校歯科医研修会を行っていたが、今年度は会館建設の日程上、やむをえず新学期がはじまった平成29年4月10日（月）に八幡歯科医師会館において開催された。今年度は、昨年健診の内容が一部変更になったことから、学校歯科医並びに協力歯科医の出席の中、学校歯科健康診断早見表、学校歯科医の活動指針（平成27年改訂版）、学校歯科医ハンディノートに基づいて、主な改正点である「歯列・咬合」ならびに「CO要相談」を中心に健診基準の確認と徹底、CO・GOの意義と重要性などについて講演を行った。

本会における啓発事業として、7月30日（木）本会会館において「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」「歯・口の健康啓発標語コンクール」の審査会を行った。今年度も、多数の図画・ポスター、啓発標語の応募があり、本会執行部役員ならびに地域保健委員会委員による厳正な審査により、本年度の入賞作品を決定し、その中から小学生低学年、高学年、中学生の部で、それぞれ1点ずつ福岡県学校歯科医会のコンクールに提出した。

また、フッ化物応用の啓発活動の一環として、イオン八幡東ショッピングセンターにて「フッ素イオン de ハッピーフェスタ」を10月29日（日）に開催した。福岡県衛生士会北支部にも協力していただき、無料歯科相談や口腔衛生指導、歯科矯正相談、年齢に応じた「歯科クイズ」の実施、フッ素の効果についての実験や、フッ化物洗口剤を、実際に子供達に体験してもらった。天候にも恵まれたせいか、歯科相談に約130名、歯科クイズに約110名、フッ化物洗口に約300名、など各コーナー合わせると延べ750名の来場者があり、予想を大幅に超える盛況であった。来場者の半数以上が、小・中学生とその保護者で、口腔内への関心が非常に高いことを実感することができた。また、同会場において「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」「歯・口の健康啓発標語コンクール」に応募いただいた図画・ポスター・標語を今年度からの試みとして、多くの来場者に見ていただけるようにと考え、1週間展示した。このフェスタを続けることによって、さらに地域住民、特に子供達が自分の口腔内への関心をより高めることができると考えている。



表彰おめでとうございます

◎秋の叙勲

◇瑞宝双光章



山 地 直 樹
(小 倉)

◎文部科学大臣表彰

日 時 平成29年11月16日(木)13:00～
平成29年度全国学校保健・安全研究大会



三 箇 正 人
(八 幡)



平 瀬 久 義
(筑 紫)

◎福岡県学校保健功労者

日 時 平成29年11月22日 (水)
場 所 福岡リーセントホテル
舞鶴の間



白 川 安 彦
(京 都)



諸 山 隆 正
(京 都)



藤 田 雅 人
(飯 塚)



小 島 浩 一 郎
(飯 塚)



田 中 芳 浩
(飯 塚)



松 尾 範 彦
(飯 塚)



文 野 知 滋
(飯 塚)



山 口 章
(飯 塚)



首 藤 実
(飯 塚)



拝 形 幸 司
(筑 紫)



吉 村 雅 明
(筑 紫)



小 坪 義 博
(久 留 米)



堤 康 記
(八 女 筑 後)



永 田 和 彦
(八 女 筑 後)



永 田 清 久
(八 女 筑 後)



松 田 宏 一
(大 牟 田)



川 崎 充 則
(小 倉)



和 田 伸 一
(遠 賀 中 間)



鶴 田 哲 昭
(遠 賀 中 間)



三 阪 賢 二
(遠 賀 中 間)



田 中 裕 治
(遠 賀 中 間)

◎第56回全日本学校歯科保健優良校

筑 紫 筑紫野市立筑紫野南中学校 (奨励賞)
小 倉 北九州市立志井小学校 (奨励賞)

事業報告

研究・研修事業

(1) 平成29年度全国学校保健・安全研究大会

日 時：平成29年11月16日（木）・17日（金）13：00～
場 所：三重県総合文化センター
出 席 者：杉原会長・三箇副会長・平瀬専務理事
主 題：生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を
育む健康教育の推進～自ら心身の健康を育み、
安全を確保できる子供の育成～

(2) 第67回全国学校歯科医協議会

日 時：平成29年11月16日（木）15：30～
場 所：三重県総合文化センター
出 席 者：杉原会長・三箇副会長・平瀬専務理事
講 演 I：歯科保健から見た児童虐待
～学校歯科医の関わり～
東京都板橋区要保護児童対策地域協議会
代表者会議委員
東京歯科大学臨床教授・森岡歯科医院（東京都）
院長 森岡 俊介
講 演 II：児童虐待予防 三重県歯科医師会10年の歩み
公益社団法人 三重県歯科医師会
副会長 羽根 司人

(3) 平成29年度福岡県学校健康教育研究大会

日 時：平成29年11月22日（水）
場 所：福岡リーセントホテル 舞鶴の間
出 席 者：杉原会長・平瀬専務理事

(4) 第22回福岡県学校歯科保健研究大会

日 時：平成29年11月18日（土）12：50～17：00
場 所：福岡県歯科医師会館 5階 大ホール
参 加 者：329名
主 題：『歯・口の健康づくりの総合的展開を目指して』
～生涯を通じて自らの健康保持増進を目指す
健康教育～

実践活動報告①

「子どもの学びを地域へ」
～歯科検診から始まる健口教育～
福岡市立北崎小学校 養護教諭 塚 元 依 子

実践活動報告②

「歯と口に良い食べ物を選び、よくかんで食べて、
健康な心と体づくりに取り組む子どもの育成」
～歯と口の環境と食生活を整え、よくかんで食べる実践を通して～
北九州市立志井小学校 養護教諭 芳 賀 聡 美

特別講演

「最近の口腔外傷の傾向と永久歯外傷への対応について」
福岡歯科大学成長発達歯科学講座小児歯科学分野 教授 尾 崎 正 雄

実践活動報告③

「27年間にわたる歯みがき講習会」
～フッ化物洗口の実践～
北九州市立北小倉小学校 学校歯科医 山 地 正 樹

会務報告

各種会議・会員現況報告

4月15日 第1回常務理事会	26日 第1回普及指導委員会
15日 第1回広報委員会	9月9日 図画・ポスター審査会
22日 第1回理事会	9日 第5回常務理事会
5月13日 第2回常務理事会	16日 第3回学術委員会
13日 第1回定時監査会	30日 第5回理事会
13日 第1回学術委員会	10月7日 第2回広報委員会
13日 第1回制度調査委員会	14日 第2回普及指導委員会
27日 第2回理事会	21日 第6回理事会
27日 平成29年度定時総会(第106回)	28日 第4回学術委員会
正・副議長打合せ会	28日 第2回制度調査委員会
6月10日 平成29年度定時総会(第106回)	28日 第3回広報委員会
17日 第3回常務理事会	11月4日 第6回常務理事会
24日 第3回理事会	11日 第3回普及指導委員会
7月15日 合同会議	11日 第3回制度調査委員会
22日 第4回常務理事会	11日 第2回広報小委員会
29日 第4回理事会	18日 第22回福岡県学校歯科保健研究 大会
29日 第1回広報小委員会	
8月5日 第2回学術委員会	25日 第7回理事会

会員現況報告（平成29年11月1日現在）

加盟団体名	会員数	加盟団体名	会員数
京 都	50名	久 留 米	56名
豊 前 築 上	15	八 女 筑 後	55
田 川	42	大 川 三 瀧	25
直 方	41	柳 川 山 門	36
飯 塚	64	大 牟 田	43
宗 像	56	門 司	31
粕 屋	28	小 倉	32
糸 島	8	戸 畑	5
筑 紫	84	若 松	5
朝 倉	27	八 幡	82
小 郡 三 井	25	遠 賀 中 間	37
浮 羽	19	合 計	866

東地区212名、西地区176名、南地区286名、北地区192名

◎公 告

○平成29年度 臨時総会（第107回）

日 時 平成30年3月17日（土）午後3時00分

場 所 福岡県歯科医師会館 5階 大ホール

◎予 告

●基礎研修会

日 時 平成30年2月3日（土）午後2時50分～

場 所 福岡県歯科医師会館 5階 視聴覚教室

物 故 会 員

自 平成29年10月1日 至 平成29年11月30日

ご冥福をお祈り致します

永 末 哲 也 60才（田 川）

福岡県学校歯科医会 ホームページ

<http://www.fk-gakusi.jp>



編 集 後 記

福岡県学校歯科医会では今年度より、情報や活動内容をより早く、より身近に感じていただくため、新たにニュースレターを年3回作製することとなり、すでに第2号までお手元に届いていることと思います。そのため、現会報誌は本年度より年2回から1回の発行とさせていただきます。広報委員会一同、少し慌ただしくなりましたが、会員の皆様に少しでもお役に立てますよう頑張りたいと思います。つきましては会員の皆様にお願ひがあります。ご意見・ご質問・ご要望・今後、取り上げて欲しいテーマ・自身の体験談の投稿・身近で学校歯科に関して面白い取り組みをしている先生や学校の情報などなんでも構いません。メールやお便り等でお知らせいただければ幸いです。インターネット環境にある方は福岡県学校歯科医会ホームページ右上段の「お問い合わせ」をクリックしてフォームに入力して頂いたり、メールアドレス・ホームページアドレス・住所等は別項に記載してあります。どうぞよろしくお願い致します。

広報委員会 入江 祐彰



樹氷

県学歯会報

第 91 号

毎年1回発行

発行人 杉原 瑛治

発行所 〒810-0041 福岡市中央区大名1丁目12-43
一般社団法人 福岡県学校歯科医会
TEL 092-714-4627 FAX 092-714-7599
E-mail k-gakusi@alpha.ocn.ne.jp
U R L <http://www.fk-gakusi.jp>

印刷所 〒812-0065 福岡市東区二又瀬新町12-29
株大里印刷センター
TEL 092-611-3118 FAX 092-629-2715